

母子保健事業

平成27年度に策定した「母子保健計画」に基づき、妊婦・乳幼児健康診査や健康相談、家庭訪問、健康教育等の各種母子保健事業を実施しました。（1月末現在の実績）

1 妊婦健康診査

妊娠の届出があった妊婦に対し、母子保健のしおりを発行し、全員に保健師による面接を行いました。妊娠届出時のアンケートや、妊娠経過、こころの状態、家庭環境等から支援が必要な妊婦を把握し、必要に応じ電話等により支援を行いました。

また、14回分の健康診査費用を助成し、里帰り等による県外在住妊婦についても、償還払いによる健診費用の助成を行いました。

○母子保健のしおりの発行：220人（転入妊婦5人含む、3月7日現在）

○1～14回妊婦健診受診者：延べ1,945人

○県外助成：18人

2 家庭訪問

生後1～2か月の乳児がいる家庭へ、保健師、助産師、訪問員が全戸訪問を実施し、産婦に対し産後うつを確認するための『エジンバラ産後うつ質問票（EPDS）』等によりこころの状態を確認し、育児不安や育児環境等への保健指導を行いました。

その結果、EPDS高値（9点以上）の人や、育児不安のある人、身体面や育児環境等で経過観察が必要なケースには、保健師による訪問や乳幼児健康相談等により、途切れのない支援を行いました。

○赤ちゃん訪問：179人（市外依頼分4人を含む）

○産後うつ等支援対象者：16人

○随時訪問（フォロー児）：34人（1月末）

3 思春期保健事業

乳児や子育て中の保護者との触れ合いにより、思春期の子どもたちが自身の成長を振り返り、自分たちが大切に育てられてきたことに気づき、自己肯定感を高めることを目的に、昨年度から出前教室「赤ちゃんふれあい教室」として、希望のあった磯部中学校、大王中学校、志摩中学校に対し健康教育を実施しました。また、乳児親子延べ25組、母子保健推進員延べ10人にも参加いただきました。

○赤ちゃんふれあい教室：3校 中学3年生149人